

こころとからだに、
おいしいものを。



平成 30 年 3 月 2 日

各 位

会 社 名 ダイドーグループホールディングス株式会社
代表者の役職氏名 代表取締役社長 高松 富也
(コード番号：2590 東証第1部)
問 い 合 わ せ 先 執行役員 コーポレートコミュニケーション部長
長谷川 直和
電 話 番 号 06-7166-0077

**減損損失（連結）および関係会社出資金評価損（個別）・
関係会社株式評価損（個別）の計上に関するお知らせ**

当社は平成 30 年 1 月期（平成 29 年 1 月 21 日～平成 30 年 1 月 20 日）におきまして、下記のとおり、特別損失として減損損失（連結）および関係会社出資金評価損（個別）・関係会社株式評価損（個別）を計上しましたので、お知らせいたします。

記

1. 減損損失（連結）の内容

① DyDo DRINCO RUS, LLC（所在地：ロシア モスクワ市、出資比率 100%、以下「DDR」）

DDRにおいては、2013 年 12 月よりモスクワ市における自販機展開を通じて商品の拡販を図っておりますが、モスクワ市政府による自販機ロケーションの入札実施が進んでいないことに加え、自販機オペレーション体制の整備に当初想定以上の時間を要しており、自販機展開の進捗が遅延する結果となっております。また政府施策により、2018 年 7 月より義務化される、自販機オンライン納税への対応に伴い、事業の見直しが必要な状況となっております。これらの状況を反映し、「固定資産の減損に係る会計基準」に基づく回収可能性を検討した結果、自販機固定資産につきまして、平成 30 年 1 月期の連結決算において、減損損失 1 億 61 百万円を計上いたしました。

今後、DDRでは、自販機ロケーションの大幅な見直しや、自販機オペレーションレベルのさらなる向上などの改革を実行してまいります。

②DyDo Mamee Distribution Sdn. Bhd. (所在地：マレーシア ジョホールバル市、出資比率51%、以下「DMD」)

近年、マレーシアにおいては、消費者の健康志向の急速な高まりにより、炭酸飲料の販売が著しく低迷するなど、市場環境は大きく変化しております。DMDにおいても、炭酸飲料「Cheers」をはじめとしたドライ飲料が苦戦をしたことから、業績は当初計画を大きく下回る推移となっております。これらの状況を反映し、「固定資産の減損に係る会計基準」に基づく回収可能性を検討した結果、DMDの株式取得に伴い生じたのれんにつきまして、平成30年1月期の連結決算において、減損損失2億69百万円を計上いたしました。

今後、DMDでは、既存の炭酸ブランド「Cheers」の取扱いを中止するとともに、日本DyDoの製品開発ノウハウを活かし、健康志向に対応する高品質な新製品の展開を加速することにより、ブランドポートフォリオの再構築を図ってまいります。

2. 関係会社出資金評価損（個別）・関係会社株式評価損（個別）の内容

上記①の減損処理に伴い、DDRに対する出資金の実質価額が著しく下落することとなったため、平成30年1月期個別決算において、関係会社出資金評価損4億78百万円を特別損失として計上しております。

また、上記②の減損処理に伴い、当社が保有するDMDの株式の実質価額が著しく下落することとなったため、平成30年1月期個別決算において、関係会社株式評価損6億56百万円を特別損失として計上しております。

なお、当該関係会社出資金評価損および関係会社株式評価損は、連結財務諸表上は消去されるため、連結業績への影響はありません。

3. 業績に与える影響

上記特別損失を計上した平成30年1月期決算の内容につきましては、本日（平成30年3月2日）発表しております「平成30年1月期 決算短信〔日本基準〕（連結）」をご参照ください。

以 上